

Mighty Checker ニュースレター Vol. 9

(2008年7月号)

この度、浅井病院様のご協力により、レセプト点検ソフト「Mighty Checker」のご活用事例をご紹介します。精神科主体の病院でも活用していただいております。皆様のご参考になれば幸いです。

ご協力いただいた方：浅井病院医事課主任 原田 祥成氏

1. 効果

医事課業務の効率化

- ・医事課人員は導入後も10名で同じですが、残業時間は毎月平均5時間/人減少し、他業務もできるようになったので、実際の効果はより大きいと思います。
- ・新人でも経験者と同じくらいレセプト点検の業務量がこなせるようになりました。

医事課業務の質の向上

- ・マイティーチェッカー(以後、MC)で、レセプトの点検精度が向上し、ばらつきが少なくなりました。
- ・新人業務の質の向上が図れ、レセ電病名への変更など医師へお願いしやすくなりました。

2. 成功の秘訣

導入初期の医師の負担が軽くなるようにしたことです。

- ・医事課で作成したワープロ病名とレセ電コードとの対応リストを元に、医事会計システムの病名テーブルにコードづけられたワープロ病名を医事課が登録しました。その病名テーブルを医師の使う電子カルテの病名テーブルにまとめて反映させました。医師が最初から電子カルテの病名テーブルにそれらのワープロ病名を登録したら、医師の負担が非常に大きくなるどころでした。

1. 導入

Q. レセプトチェックシステム導入の理由は？

2007年10月本格導入時は、病名漏れをなくすこと、減額査定額を下げることで、レセプト点検に関わる業務時間を短縮することでした。

Q. レセプトチェックシステムとして、「マイティーチェッカー」を選定された理由は？

他の病院での導入実績を評価しました。導入費用も他と比べて安かったので。

2. 運用

Q. よく使われている機能や特長は？

- ・チェーンアップ機能や辞書機能です。チェーンアップ機能では、病名の追加や削除などが使われています。また調べ物をするときには辞書機能も使っています。
- ・千葉県は査定審査が他県より厳しく、デフォルトの機能ではチェックが甘い部分があります。そのあたりを過去の査定分析を活かし浅井病院独自のチェーンアップを行っています。

Q. 病名整理は？

システム導入初期に、医事課でワープロ病名とレセ電コードとの対応リストを作成し、それを医事会計システムの病名テーブルに登録し、合わせて医師の使う電子カルテの病名テーブルにも反映させました。運用上は医師が登録されたレセ電病名を電子カルテに入力するようにしています。

今は医事課がMC-PROから未コード化傷病名のリストを出力し、レセ電病名への変更を医師に依頼し、医師が電子カルテに入力し、その結果を医事会計システムに反映させています。未コード化傷病名の整理はその都度こつこつとレセ電病名に変更することが大事です。

急性病名や疑い病名も同様にMC-PROからリストを出力し、医師に確認を依頼することで、消し込みを月の半ばから月末までに行い、これらの病名が2ヶ月を超えないようにしています。また不要病名リストも出力し、生きている病名だけを記載するようにしています。

【MC-PRO急性病名一覧表印刷例】

傷病名称	診療開始日	転帰	患者番号	氏名
急性気管支炎	平成19年10月30日		0000021212	山田 480子
急性胃炎	平成19年10月30日		0000021212	山田 480子

